



白河・会津街道のうち「太閤道 勢至堂峠」が
日本山岳会 山岳古道 120 選に選ばれました



ターゲット 11.4

令和4年12月15日
郡山市文化スポーツ部
文化振興課
課長 穴戸 秀明
TEL：924-2661

SDGs ターゲット 11.4 「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。」

令和4年12月7日、公益社団法人 日本山岳会が選定する「全国山岳古道 120 選」の一つに、白河・会津街道のうち、郡山市-須賀川市間にある^{せいしどう}勢至堂峠が「太閤道 勢至堂峠」として選ばれました。

白河・会津街道の保存活動をされている「太閤の道と風の会」の金田榮氏が、選定報告のため来庁されます。

- 1 日時 12月19日(月)午後4時30分
2 場所 第1応接室
3 出席者

氏名	役職
かねた さかえ 金田 榮 様	太閤の道と風の会 会長 湖南町史談会 事務局長

- 4 次第 (1) 開会
(2) 出席者紹介
(3) 選定報告
(4) 歓談
(5) 閉会
- 5 対応 郡山市長
文化スポーツ部長

<全国山岳古道 120 選>

公益社団法人 日本山岳会が、創立120周年記念事業として、山中にあって後世に残したい山岳古道を全国から120選んで調査を実施している。

※詳細は別添パンフレット・ポスターを参照

<白河・会津街道>

会津若松城下から白河城下の奥州街道との分岐点に至る約 66 kmの街道で、豊臣秀吉による奥羽仕置に際して、伊達政宗が白河から会津までの工事を担当し、道や宿駅が整備された。その後、17 世紀前半に行路が変更された。江戸と会津・越後方面を結ぶ交通路として、参勤交代や、廻米や佐渡金山の金などの物資輸送にも利用された。

令和元年 10 月に文化庁「歴史の道百選」に選定されている。

せいしどう <勢至堂峠>

今回、全国山岳古道 120 選に選ばれた勢至堂峠は、白河・会津街道の会津藩領と白河藩領の境で、古道（土道）が一定区間良好な状態で残り、藩境を示す「藩界表石」が所在している。

幕末には、日本で初めて正確な国土の姿を明らかにした「大日本沿海輿地全図」を作成した伊能忠敬がこの道を通り測量を行っているほか、吉田松陰もこの道を踏破している。

また、民俗学者の柳田国男は、猪苗代湖の東南を訪れた後、勢至堂峠を馬で越えて白河に向かったことを「勢至堂峠」に記している。



勢至堂峠内にある藩界表石（太閤の道と風の会 金田 榮 氏提供）

白河・会津街道（郡山区間 黒森峠～勢至堂峠）



(写真：太閤の道と風の会 金田 榮 氏提供)

日本山岳会とは

日本山岳会は1905年(明治38年)に創立されました。日本で最も歴史ある山岳会として、また日本を代表する国際的なアルパインクラブとして、海外登山での活躍のみならず、きわめて多岐にわたる学術研究や文化事業をおこない、登山界の発展に寄与してきました。近年は公益社団法人として、社会貢献活動になお一層力を尽くしています。現在、東京の本部を中心に全国に33の支部があり、約4,800名の会員が在籍。ハイキングや岩稜登攀、山スキーあるいは植物観察などのオールラウンドな山登りを行い、豊かなクラブライフを楽しんでいます。

当会に関するお問合せなどは、最寄りの支部あるいは本部事務局にご連絡ください。
本部事務局 〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441 room@jac.or.jp
*事務取扱時間: 月火木(10~20時)、水金(13~20時)、第1・3・5土(10~18時)
(閉室: 第2・4土、日祝、10月14日ほか)



<https://www.jac1.or.jp>

【日本山岳会支部】

●は本部



イラスト:小岩佐千子 2022.11-1000

山岳古道を歩こう

道は人間の営みのなかで形成され、社会とともに発展拡大してきました。食料を得るために、物を運ぶために、交流をするために。道を使って文化ができ、文明が起り、それらが交わってきました。

道には歴史があり、文化があります。そしてそれは絶えず変化していきます。

地質が脆く多雨な気候をもつ日本列島では、手入れをしない道はすぐに敷に覆われ、あるいは崩落し、通行には適さなくなり埋もれていきます。古い道の上に新しい道ができることによって、また土地の造成やスキー場・ゴルフ場あるいはダム建設などによって消えていきます。

人づてに開く道、古文書にあった道、古い地図にも記されていない道が数多くあります。歴史的・文化的に価値があるにもかかわらず忘れ去られた道があります。

日本山岳会では、2025年に創立120周年を迎えるにあたり、記念事業として、山中に埋もれた古道、山中にあって後世に残したい山岳古道を全国から120選んで調査します。

遠い昔に暮らしていた人々が使っていた道はどこにあったのか、何のために道をつかっていたのか。自らの足を使って、そうして埋もれてしまった道を実際に歩いて調査します。さらに、これまでの古道に関する知見や情報をできる限り集め、古道の価値と存在を明らかにして、その魅力を次世代に伝えたいと考えています。そのため、調査した古道は当会のホームページで公開し、また書籍にして記録に残します。

景観、自然、歴史、文化などの地域資源を有した山岳古道は自然の中に埋没しようとしています。山岳古道を調査し、公開することは、新たに歴史的文化的な価値を共有するだけでなく、古道を歩くという体験を通して、歴史的空間を肌で感じ、理解を深め、自然資源の持続可能な管理・利用の促進、さらに地域にあっては郷土愛を育み、地域活性化、観光振興にも寄与すると考えられます。

公益社団法人 日本山岳会
記念事業委員会 山岳古道調査プロジェクト

山岳古道調査についてのお問合せ ☎ jac-kodo@jac1.or.jp

日本山岳会が選ぶ 全国山岳古道120



ちよつと深掘り 山岳古道

■ 昔の道は尾根の道

昔の道は尾根や山腹に作られていることが多くありました。尾根とは山の頂と頂を結ぶ山の高い連なりのことです。

平地を歩くよりたいへんと思える山の道を選んだ理由には次のようなものがあります。

- ① 見通しがよく自分の位置やコースが把握しやすい。
- ② 敵や獣に対して有利(特に弓の場合)。
- ③ 谷に比べ日照時間が長いので長時間歩ける。
- ④ 大雨や崖崩れなどでも道が崩れにくい。
- ⑤ 川を渡ることが少なく、乾いていて歩きやすい。
- ⑥ 落石や雪崩の危険がない。

戦がなくなった江戸時代には、人家の多い山腹の道を通るようになり、明治に入ると舗装技術が発達して荷車や牛馬車などの車両の利用が広がったことで、勾配がより緩やかな谷筋のコースを通るようになりました。

■ 昔の東海道は御殿場経由

平安時代以前の東海道は小田原を通るのではなく、北の御殿場経由でした。

平城京や平安京を出発し、鈴鹿峠あるいは関ヶ原を越えて愛知に入り太平洋沿いに静岡を行き、駿河から箱根を敬遠してJR御殿場線と同じ経路で足柄峠を越え、東京湾の西側を常陸国に向かうか、あるいは三浦半島から東京湾の浦賀水道を渡って房総半島から常陸国に向かっていました。

しかし、800年(延暦19年)の前後3回にわたって富士山が噴火を起こして足柄路が通行できなくなったため、三島から小田原へ至る箱根路が開かれました。箱根路は険しいものの距離が短かったため、徐々にメインロードとなり、その後、徳川家康によって五街道が整備され、箱根経由が東海道として定められました。

■ 4車線もあつた古代道路

古代道路とは、7世紀後期(飛鳥時代後期)から10世紀(平安時代)にかけて計画的に建設され、利用された道路です。国は中国の制度を参考にした律令制を導入して、都を中心に本州、四国、九州にまで延びる七道を中心とした交通路を設置しました。

主に中央と地方との情報連絡を目的としたもので、地方の拠点を直線的な道路で結んでいるのが特徴です。30里(いまの換算では約16km)ごとに駅家を設置し、そこでは厩を設けて伝馬のためにウマの育成や管理をしました。時に直線が30km以上にわたって続き、その道の幅が地方では6~12m、都の周囲では24~42mに及ぶ、いまの高速道路に匹敵する道路でした。最近、関東地方や九州北部では、この古代道路跡が多数発見されています。

■ 登山道の〇合目って何?

富士山など登拝信仰がある山では「〇合目」という標識を見ることがあります。10合目まであるのですが等間隔の10等分ではありません。どうして理由でつけられているのでしょうか。

諸説ありますが、修験の十界修行からきていると考えるのが正しいと思われます。修験の十界修行とは、山に登ることが死んで生まれ変わる擬死再生を意味します。人間が仏に至るまでの世界を10に分け(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天・声聞・縁覚・菩薩・仏)、苦行の末にたどりつく山頂が極楽浄土です。ここで御来光を拝み、死後の成仏を願います。「合」は梵語の「劫」(非常に長い時間の意)からきていると考えられます。

余談ですが、埼玉県の武甲山は「丁目」表示で、山頂が54丁目。上り下り合わせて108丁目になり、登山をすることで108の煩惱を消すといわれています。

■ 人、牛、馬が塩を運んだ道

かつて海と山を結んだ「塩の道」が各地に数多くありました。塩や魚介類、生活物資が運ばれただけでなく、言葉や習慣など文化的な要素も交流した道でした。いまも史跡などが残る代表的な道として、千国街道(糸魚川—松本)、北国街道(直江津—追分)、秋葉街道(御前崎—塩尻)、岩手の塩の道(野田—盛岡)などがあります。

荷物は人、牛、馬によって運ばれました。ひとりの馬子が複数の牛や馬を使って荷物を負わせ、自らも数貫の荷物を背負って、日々山道を辿りました。

千国街道は松本から日本海まで南北約30里(120km)の道のりがあり、途中、姫川溪谷と標高1,250mに及ぶ峠などを越えるような難路が続きます。険しい山道が続く小谷—糸魚川は牛が活躍し、平坦な南部では馬が活躍したようです。時代が下るに従い、荷車や川舟などへと変化していきます。

■ 武田信玄の棒道と甲州街道

八ヶ岳の南麓には武田信玄が作ったとされる棒道があります。大軍を動員するため、本拠地の甲府から諏訪に向かって直線状に伸びた道、軍用道路です。上の棒道、中の棒道、下の棒道と三筋あったと伝えられていますが、いまでも残るのは上の棒道の一部分です。

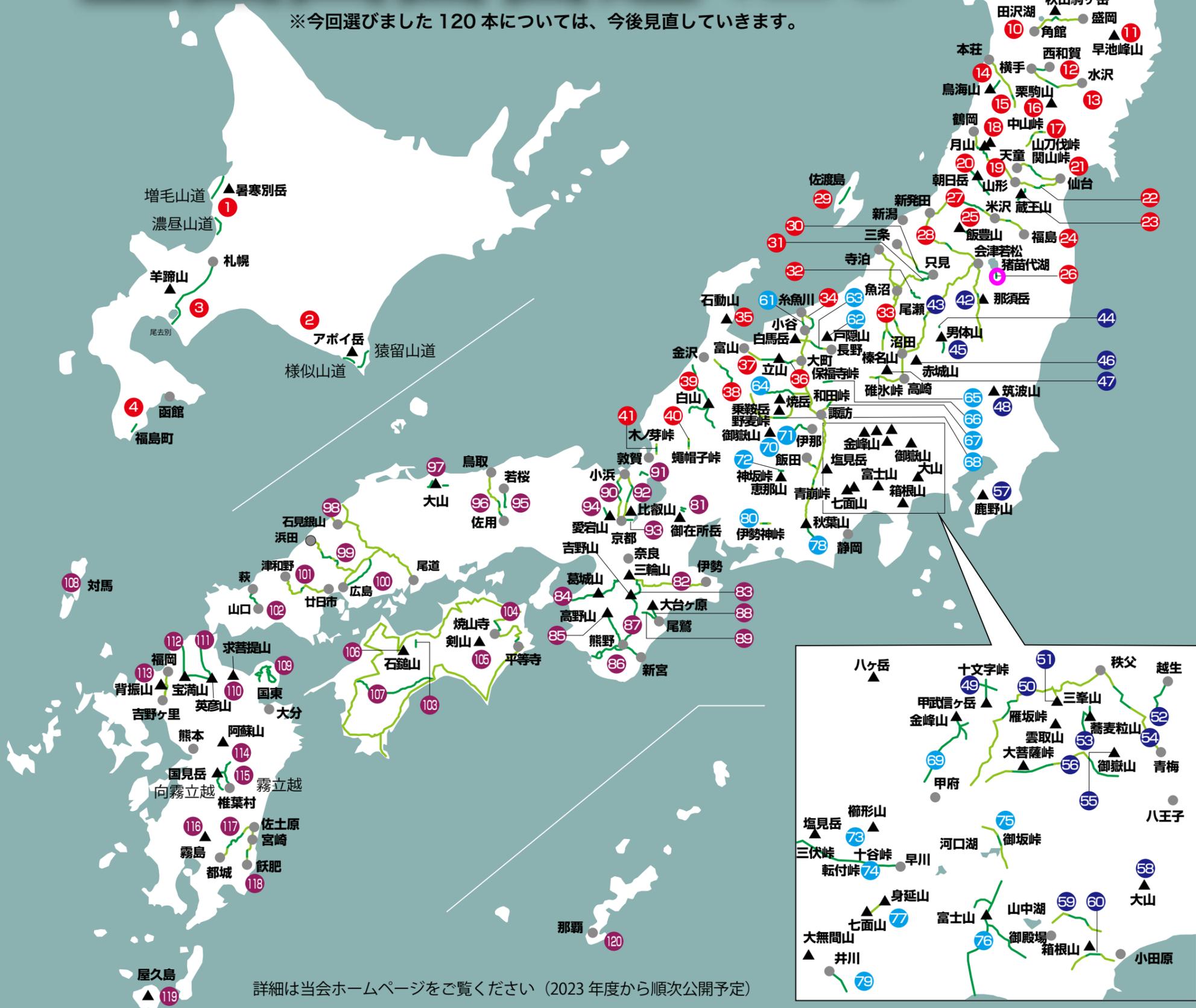
川中島に向かって葦崎から千曲川まで真北に貫いた棒道や南信州の秋葉街道にも信玄の棒道があったとの伝承が残っています。

信濃国を領国とした信玄は、甲府から諏訪までの街道を整備します。それがいまの甲州街道で、その後徳川家康によって五街道のひとつとして整備されました。甲州街道は、将軍がもしものときに江戸城から甲府城に逃げる道だったともいわれています。

日本山岳会が選ぶ 全国山岳古道120



※今回選びました120本については、今後見直していきます。



詳細は当会ホームページをご覧ください（2023年度から順次公開予定）

- 北海道
 - 1 増毛山道・濃屋山道
 - 2 様似山道・猿留山道
 - 3 本願寺道路
 - 4 殿様街道
- 東北
 - 5 恐山
 - 6 みちのく松蔭道 算用師峠
 - 7 岩木山
 - 8 三浦新道
 - 9 白神山地の古道
 - 10 秋田街道 国見峠
 - 11 早池峰山
 - 12 沢内街道 白木峠
 - 13 仙北街道 十里峠・柏峠
 - 14 鳥海山
 - 15 矢島街道
 - 16 栗駒古道
 - 17 出羽仙台街道中山越 中山峠・山刀伐峠
 - 18 出羽三山
 - 19 出羽の古道六十里越街道・道智道
 - 20 朝日軍道
 - 21 関山街道 嶺渡古道
 - 22 二口街道 二口峠
 - 23 蔵王山
 - 24 万世大路 栗子峠
- 北陸
 - 25 飯豊山
 - 26 太閤道 勢至堂峠
 - 27 越後米沢街道 十三峠
 - 28 会津街道 諏訪峠・鳥井峠・車峠・束松峠
 - 29 金北金剛の三山駆け
 - 30 八十里越え
 - 31 六十里越え
 - 32 越後銀の道 枝折峠
 - 33 三国街道 三坂峠・三国峠・清水峠
 - 34 六左衛門道
 - 35 石動山
 - 36 さらさら越え
 - 37 立山
 - 38 古白川道
 - 39 白山
 - 40 蠅帽子峠
 - 41 北陸道 木の芽峠
- 関東
 - 42 会津中街道 大峠
 - 43 沼田・会津街道 尾瀬越え
 - 44 西沢金山への道
 - 45 三峯五禅頂の道
 - 46 赤城山
 - 47 榛名山
 - 48 筑波山
- 中部・東海
 - 49 十文字峠越え
 - 50 秩父往還 雁坂峠
 - 51 三峯山
 - 52 子の権現・高山不動
 - 53 日原秩父往還と奥多摩浅間の道
 - 54 鎌倉街道 山の道
 - 55 武州御嶽山
 - 56 古甲州道 浅間尾根・大菩薩峠
 - 57 鹿野山
 - 58 相州大山
 - 59 足柄古道
 - 60 箱根旧街道
 - 61 塩の道・千国街道 地藏峠・大網峠
 - 62 戸隠山・高妻山
 - 63 善光寺古道 柄山峠
 - 64 上高地みち
 - 65 中山道 碓氷峠
 - 66 東山道 保福寺峠
 - 67 中山道 和田峠
 - 68 鰯街道 野麦峠
 - 69 金峰山 御嶽道
 - 70 木曾御嶽山
 - 71 権兵衛街道 権兵衛峠
 - 72 東山道 神坂峠
 - 73 南アルプス北部山岳古道
- 近畿
 - 74 伊奈街道 三伏峠・転付峠・十谷峠
 - 75 鎌倉街道 御坂みち
 - 76 富士山
 - 77 身延山・七面山
 - 78 秋葉街道 小川路峠・青崩峠
 - 79 大日古道
 - 80 飯田街道 伊勢神峠
 - 81 鈴鹿越え古道 千草越え・八風峠
 - 82 大和から伊勢への道 高見峠
 - 83 吉野みち
 - 84 葛城修験の道
 - 85 高野山 七口
 - 86 熊野古道
 - 87 大峯奥駈道
 - 88 大台ヶ原山 古尾鷲道
 - 89 海山北山古道
 - 90 鯖街道
 - 91 近江坂
 - 92 比叡山
 - 93 京から近江への峠道 白鳥峠 如意山
 - 94 京から丹波への間道 明智越 唐櫃越
 - 95 因幡交流鉄の道 江浪峠
- 中国
 - 96 智頭街道 志戸坂峠・鎌坂峠
 - 97 伯耆大山
- 四国
 - 98 石見銀山の道
 - 99 石見街道 石浦峠・三坂峠・中山峠
 - 100 中郡古道
 - 101 津和野街道
 - 102 萩往還
 - 103 別子銅山廃道
 - 104 四国八十八か所遍路道の山岳古道
 - 105 剣山
 - 106 石鎚山
 - 107 梶原街道 葎ヶ峠
- 九州
 - 108 佐須坂三里
 - 109 六郷満山峯入りの道（仮称）
 - 110 求菩提山
 - 111 英彦山
 - 112 宝満山
 - 113 背振山系峰入りの道
 - 114 阿蘇山
 - 115 椎葉村の山岳古道
 - 116 霧島山（高千穂峰）
 - 117 薩摩街道高岡筋
 - 118 飫肥街道 椿山峠
 - 119 屋久島 岳参り道
 - 120 首里城をめざす道